

◎ 指導計画月案参考例

○この参考例は、モデル実施園3園における作成・実践状況をとりまとめて作成したものです。
○あくまでも参考例ですので、各園の実情に合わせて活用してください。

平成〇〇年度 5歳児 〇〇組 10月指導計画

<p>前月末の子どもの姿</p>	<p>・園生活のリズムを取り戻し、これまで以上に積極的に友だちや教師とのかかわりを楽しんでいる。 ・様々な運動遊びに意欲的に取り組み、運動会への期待も高まっている。そんな中、プレッシャーで尻込みする子や、チームの勝敗や友達の頑張りよりも自分の勝敗にこだわる子がいて、遊びが止まってしまうことがある。 ・運動量が増え疲れがみられたり、季節の変わりめで体調を崩しがちな子もいる。</p>	<p>月のねらい</p>	<p>・園生活も残り半年になったことを知り、時間や行動、物の管理など、小学校への進学を視野に入れこれまでよりも意識して取り組めるようにする。 ・友だちと共通の目的に向かい活動する中で自分の力を発揮し、団結力を高めながら目的を達成することの喜びを味わう。 ・秋の自然物に関心を持ち、触れたり、集めたり、遊びに取り入れて楽しむ。 ・自分の健康に関心を持ち、健康で安全な生活を送るための生活習慣を身につける。</p>	<p>行事予定</p> <p>5日(木) 運動会 予行練習 14日(土) 運動会 17日(火) 栗拾い 18日(水) 内科健診 24日(火) 誕生会 30日(月) 体力測定</p>	
<p>活動内容</p> <p>・就学を意識して、身の回りのことを自分で整理する。 ・時計に興味を持ち、時間を意識した行動をする。 ・指人形の顔の色塗りや細部の仕上げをして完成させ、発表会の準備をする。 ・運動会に期待を持ち、意欲的に活動に参加する。 ・友達と協力し合い、演技することを楽しむ。 ・友達の前で自分の意見を発表し、発表している友達の話聞く。 ・一番上の学年であることを意識して、年中少の手本になれるように行動する。 ・さまざまな楽器に触れ、自分の好きなように演奏し楽しむ。 ・秋ならではの自然に触れて遊ぶ。(散歩・虫捕り・木の実ひろい等)</p>	<p>環境構成</p> <p>・生活に見通しが持てるような声かけや掲示など工夫し、自分で考えたと感じられるようにする。 ・生活の切り替えの目安の時間を示した時計を置き、本物の時計と比べられるようにする。 ・自分の役の動物等の特徴をイメージできるよう絵本や図鑑を用意する。 ・どうしたら勝てるのか考えられるような声掛けをしたり、クラスで話し合う機会を設ける。 ・友達との繋がりを感じながら練習を進められるよう、一緒に考えたり話し合ったり試行錯誤できる場所と環境を確保する。 ・全員の表情が見えるよう、丸くなってみたり、向かい合ったりしながら発表の場を作る。 ・運動会の再現あそびなど、一緒に遊ぶ中で年下児に教える場を用意する。 ・保育室の中に楽器コーナーを設けて、各自で存分に楽器に触れられるようにする。 ・散歩に出かけ秋の自然に触れる機会を持ち、関心を持ったことを調べられるよう絵本・図鑑を用意する。</p>	<p>予想される子どもの姿</p> <p>・気温の変化や活動に応じて、衣服の調節をしたり、脱いだ衣服を丁寧にたたんだり、身の回りのことが自分でできるようになる。【⑦④】 ・時間や時計に興味をもち、時計の針の動きを目安にしながら行動し、友達に知らせようとする。【④②】 ・指人形作りをとおして自分の指人形への愛着や劇を行うことへの期待をもつ。【⑦③】 ・勝つ嬉しさや負ける悔しさを体験し、周りの人たちに応援してもらいながら競うことを楽しむ。【⑦④⑤⑥⑦】 ・様々な運動遊びに取り組み、また運動会を通して自信をつけ、さらに様々な運動遊びに意欲的に取り組む。【⑦④】 ・協力し合うことの大切さを感じ、友だちとぶつかり合い認め合いながら一緒に練習する。【⑤⑥⑦⑧】 ・自分の意見を発表できる子や、なかなか言えず保育士に助けられながら言おうとする子がいる。他の子話を聞いて様々な意見があることに気づく。【④⑤⑥⑧】 ・年下児に遊びを教える中で、相手に合わせた言葉を選んだり伝え方を工夫しながら、役に立ち、頼られることを喜ぶ。【④⑥⑦】 ・楽器の使い方を覚えて、自由に演奏して音を奏でる楽しさを味わう。【⑤③】 ・秋ならではの自然に触れ、秋の生き物や木の実などの自然に興味を広がり、意欲的に集めたり調べたりする。【④③②】</p>	<p>保育者の援助・配慮、環境の再構成</p> <p>・朝晩の気温差や、空気が夏と違い涼しくなっていることを感じられるような声掛けをしたり、温湿度計を確認して温度や湿度について数値として考えられるようにする。 ・朝や帰りの身支度や昼食、片付けやなど、時計を意識しながら行えるよう声をかける。小学校では昼食の時間も限られていることを伝え、時間内に食べられるよう言葉かけをしていく。 ・劇の内容についてイメージがもてる話し合いを深めていく。 ・力を合わせて勝つ喜びを味わい、または次回どうすれば勝てるのか話し合いをおして気づけるようにする。 ・運動の苦手な子も体を動かす楽しさが感じられるよう保育者と一緒に遊ぶ。 ・どのようにしたら皆で楽しい演技ができるのか、投げかけて考えてもらうとともに、協力し合う姿を褒めて、意欲的に活動できるようにする。 ・自分の考えをもつこと(考える時間を設ける)、友だちに伝える機会、認めてもらった喜びなど“伝える”ことが楽しいと思えるような時間をこまめに作る。 ・年下児との関係性を見守り、それぞれの子の関わり方の方法を大事にし見守る。 ・使い方を伝えながら、子どもたちの自由な表現の仕方を褒め、次へのステップに繋げていく。 ・自然との触れ合いの中で子ども達の発見や驚きを受けとめ、共感する。</p>		
<p>家庭との連携</p>	<p>・気候に合わせて、衣服の衣替えを呼びかける。 ・運動会の詳細や子どもたちの練習風景やエピソードを保護者の方にわかりやすく説明していく。 ・運動量が多くなるので、十分な休息・睡眠と、健康管理ができるよう子どもの様子を伝え合う。 ・保育の中で取り組んでいる内容や子どもの様子を伝え、家庭での話題につなげられるようにする。 ・内科健診や歯科検診の結果を知らせ個々に治療をお願いする。 ・子どもの小さな成長をこまめに伝え、安心して預けてもらえる関係づくりを心掛ける。</p>	<p>小学校・地域との連携</p>	<p>・事前に連絡し、散歩で小学校の校庭などを訪れ雰囲気を感じる。 ・掲示してある学校だよりを年長児や保護者にアピールし、小学校を知ってもらう機会にする。 ・小学校の授業参観に保育所職員も参加し、小学校の様子を知る。 ・運動会に小学校の先生や地域の方を招待する。 ・運動会のお知らせを近隣の方や、卒園児に配布する。</p>	<p>月の反省</p>	<p>・小学校に散歩に行き、校舎や授業の見学をさせてもらった。小学校に対する、子どもたちの期待が高まったようであり、今後、振り返りの機会を設けたい。 ・運動会を通して、目標を持って頑張る姿が見られたり、協力し合うことなど様々な経験をすることができた。 ・しかし、練習や準備に多くの時間を費やしてしまい、十分に子どもたち同士で話し合う機会を持つことができなかった。子どもたちが、より主体的に行事・活動に参加していけるよう、今後の行事、生活等においては、話し合いの機会を意欲的に多くしていきたい。 ・気温の変化や木々の色づきなど、秋の自然を感じ取ることができた。子どもたちの発見や感動を受け止めていきたい。 ・運動量が増え疲れが見られたり、季節の変わり目で体調を崩しがちな子もいる。温度計や体感を通じて、自分で身支度を考えられるよう支援していきたい。</p>

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

ア. 健康な心と体 イ. 自立心 ウ. 協同性 エ. 道徳性・基本意識の芽生え オ. 社会生活との関わり カ. 思考力の芽生え キ. 自然との関わり ク. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ. 言葉による伝えあい コ. 豊かな感性と表現

⑦「家庭との連携」欄

- ・保護者との情報交換や、園の行事などを積極的に行うために伝えておきたいこと、用意してほしい物などを記入

★特に年長児は、保護者に対し、就学を意識した活動や行事で連携を図るものを記入

⑧「小学校・地域との連携」欄

- ・小学校や地域との相互の行事参加などの予定を記入

★特に年長児は、就学を意識した、子ども同士の交流活動や、教職員同士の連携内容などを積極的に企画し、その予定を記入

⑨「月の反省」欄

- ・1か月の子どもの育ちと保育者の関わりを振り返り、「月のねらい」が達成できたかどうかを記入
- ・活動や遊びを通して見られた子どもの姿を記入
→この姿が翌月の「前月末の子どもの姿」となります。
- ・今後の改善策や来月の保育者の関わりで心がけたいことを記入

【各項目欄の記入にあたってのポイント】

- ①「前月末の子どもの姿」欄
- ・子どもの現状を把握するために、子どもがどこまで育っているのかがわかる姿を記入
 - ※子どもが何に興味を持ち、何を喜んでいるのか、どのような時にどのような行動をするのかを記入するとよい。
 - ※子どもを主語にして記入

- ②「月のねらい」欄
- ・「前月末の子どもの姿」や年間計画等を踏まえて、「子どもがもっとこんな風になってほしい」という保育者の「ねがい」を記入
 - ※子どもを主語にして記入

- ③「活動内容」欄
- ・「月のねらい」を達成するために、どのような活動や遊びをするかを具体的に記入
 - ※子どもを主語にして記入

- ④「環境構成」欄
- ・「活動内容」に挙げた活動や遊びを子どもが経験できるように、どのような環境を整えるかを記入
 - ※主に物的環境や時間・空間・雰囲気などを記入(場所を用意、物を用意など)
 - ※保育者が指示をするのではなく、子どもが自分からやりたくなるような環境を準備することで、子どもの主体的な育ちにつながります。
 - ※保育者を主語にして記入

- ⑤「予想される子どもの姿」欄
- ・「前月末の子どもの姿」や「環境構成」により、子どもがどのような動きをするのかを予測して記入
 - ※「こんな風になるといいな」と思う姿だけでなく、きっとこんな風になってしまう子もいるだろうなという配慮の必要な子どもの姿も記入する。
 - ※子どもを主語にして記入

★特に年長児については、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をあてはめてみる。
※1つの活動・姿に複数の「10の姿」があてはまってもよい。
※「10の姿」がバランスよくあてはまることにより、3つの資質・能力が育まれています。

- ⑥「保育者の援助・配慮、環境の再構成」欄
- ・「予想される子どもの姿」が見られた時に、保育者はどのような援助・配慮をしていくかの見通しを記入(人的環境)
 - ※全体に対する援助・配慮というよりは、必要な子に対する援助・配慮と捉えるとよい。
 - ※子どもの姿に変化があった時に、環境の再構成をどのようなタイミングでどのように行っていくかの見通しが持てる内容を記入する。
 - ※保育者を主語にして記入

★特に年長児については、できない子に対する援助だけでなく、意欲的な子をさらに伸ばす手立てについても記入するとよい。